

第50期 報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日



雷鳥（5月下旬）

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成28年度の事業概況についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善により、緩やかな回復基調が継続し、個人消費にも持ち直しの動きが見られました。その一方で、英国のEU離脱決定や米国のトランプ新政権による保護主義政策推進の動き等を背景に、依然として先行き不透明な状態が続きました。

観光業界におきましては、航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加、消費税免税制度の拡充等の要因により、平成28年の訪日旅客数が史上初めて2千万人の大台を超え、2,403万人に達する等、訪日旅行の躍進が続きました。一方、国内旅行においては、昨年3月の北海道新幹線開業や、4月に発生した熊本地震の影響、その後の「九州ふっこう割」等による地域的な変動があったものの、総じて低調な動きとなりました。

このような中、当期は、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが、そして4月16日にホテル立山が営業を再開し、弥陀ヶ原ホテルは11月4日まで、ホテル立山は11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、ホテル立山は、宿泊料金の改定が奏功して、8月までは前年並みの収入を確保しましたが、9月以降、度重なる台風や長雨、初冬期の積雪不足が影響して営業終了まで低調に推移いたしました。また、弥陀ヶ原ホテルは、4、5月が海外客を中心に好調であったため、9、10月の減少分を補う事ができ、前年を上回りました。

その結果、ホテル立山は、宿泊人員が34,983人（対前年95%）となり、宿泊収入は対前年98%、食堂収入は対前年95%、売店収入は対前年92%、収入合計では対前年95%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルは、宿泊人員が18,550人（対前年101%）となり、宿泊収入は対前年103%、食堂収入は対前年98%、売店収入は対前年101%、収入合計では対前年102%となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、新幹線効果の継続を期待しましたが、期待に反し、首都圏の企画旅行が大幅に落ち込んだため、シーズンを通じて低調な動きとなりました。

これにより、宿泊人員は23,497人（対前年80%）となり、宿泊収入は対前年81%、売店等を加えた収入合計では、対前年80%となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山収入7億69百万円（対前年98%）、弥陀ヶ原ホテル収入4億4百万円（対前年102%）、宇奈月国際ホテル収入4億13百万円（対前年80%）、食堂飲食及び物品販売収入9億87百万円（対前年93%）となり、これにビル賃貸収入1億75百万円（対前年100%）を加えた売上高合計は27億49百万円（対前年94%）となりました。さらに、営業外収益11百万円を加えた収益合計は27億60百万円（対前年94%）となった次第であります。

次に営業費につきましては、人件費、備用品費等、経営全般にわたる効率化に努め、営業外費用を含めた費用合計は27億34百万円（対前年97%）となりました。

以上により、当期の経常利益は26百万円となり、さらに特別損失、法人税等および法人税等調整額を加減した結果、当期純利益18百万円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成28年度）

項 目	実 績	前年比%
営業日数	229	100
宿泊人員	34,983	95
一日平均宿泊者数	153	95
営業収入	769,184	98
宿泊収入	766,163	98
雑収入	3,021	122
一日平均収入	3,358	98
客室数	85	100
延使用客室数	15,290	95
客室回転率	79	95
宿泊定員	284	100
宿泊効率	58	95

（備考）営業期間(当期)：平成28年4月16日～平成28年11月30日(宿泊日数228日)

営業期間(前期)：平成27年4月16日～平成27年11月30日(宿泊日数228日)

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成28年度）

項 目	実 績	前年比%
営業日数	229	100
室堂到達人員	739,675	94
営業収入	987,315	93
食堂収入	351,279	95
喫茶収入	110,693	94
売店収入	516,571	92
雑収入	8,770	95
一日平均収入	4,311	93
営業収入/室堂到達人員	1,334	99

（備考）営業期間(当期)：平成28年4月16日～平成28年11月30日

営業期間(前期)：平成27年4月16日～平成27年11月30日

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成28年度）

項 目	実 績	前年比%
営業日数	209	100
宿泊人員	18,550	101
一日平均宿泊者数	89	102
営業収入	404,678	102
宿泊収入	331,627	103
雑収入	1,444	195
食堂収入	41,296	98
売店収入	30,309	101
一日平均収入	1,936	102
客室数	52	100
延使用客室数	8,128	100
客室回転率	75	100
宿泊定員	173	100
宿泊効率	52	102

（備考）営業期間(当期)：平成28年4月10日～平成28年11月4日(宿泊日数208日)

営業期間(前期)：平成27年4月10日～平成27年11月4日(宿泊日数208日)

宇奈月国際ホテル営業成績表（平成28年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	365	99
宿 泊 人 員	23,497	80
一日平均宿泊者数	64	80
営 業 収 入	413,220	80
宿 泊 収 入	343,089	81
追加飲食収入	25,063	78
施設利用収入	6,620	79
日帰り収入	9,133	66
売 店 収 入	25,689	78
雑 収 入	3,623	78
一 日 平 均 収 入	1,132	80
客 室 数	64	100
延 使 用 客 室 数	9,472	80
客 室 回 転 率	41	80
宿 泊 定 員	304	100
宿 泊 効 率	21	78

（備考）営業期間(当期)：平成28年4月1日～平成29年3月31日

営業期間(前期)：平成27年4月1日～平成28年3月31日

財産および損益の状況の推移

区 分	第 4 7 期 (平成25年度)	第 4 8 期 (平成26年度)	第 4 9 期 (平成27年度)	第 5 0 期(当期) (平成28年度)
売 上 高 (千円)	2,732,003	2,622,243	2,932,350	2,749,662
当期純利益(損失) (千円)	14,355	△35,250	94,391	18,542
1株当たり当期純利益(損失)	15円95銭	△33円61銭	104円87銭	20円60銭
総 資 産 (千円)	1,671,313	1,881,278	2,119,321	2,026,301

平成29年度の取り組み

観光業界では、価格競争と観光地間競争により、引き続き厳しい経営環境が予想されます。その中で、効率的な事業運営と収益の確保に努め、経営基盤の安定化をはかってまいります。

1 営業施策

北陸新幹線開業から3年目のシーズンを迎え、これからは、今後お客様を継続的に迎え入れていくための大きな正念場になると捉えております。折しも、昨年11月、富山県では有識者による「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」が発足し、立山黒部の世界ブランド化に向けた取り組みが始まり、また当社においても、アルペンルートの今後の方向性を探る「魅力向上プロジェクト検討委員会」を立ち上げ、立山黒部の未来像を描いてまいりました。立山黒部のもつポテンシャルに大きな期待が寄せられており、これらの要請に応え、「立山黒部」ブランドを確立するために、積極的な誘客促進および受け入れ態勢の整備に努め、強固な経営基盤の構築に繋げてまいりたいと存じます。

まず、宿泊稼働率の最大化を図るため、シーズン毎の適正な客種、適正な客単価の設定を行うとともに、全館貸切企画の設定等、閑散期の販売強化にも努めてまいります。

また、年々加速する個人化傾向への対応としましては、自社インターネットプランや体験型観光の提案等、多様化する旅客ニーズに合わせた商品を造成し、きめ細やかな情報発信を継続的に行いながら、安定した顧客の獲得に結びつけてまいります。

さらに、各ホテルのコンセプトを再構築（リブランド）し、ブランド力強化を図るために、オフィシャルサイトをリニューアルし、また英語、中国語に対応させることで、急増する訪日客の利便性を高めてまいりたいと存じます。

団体昼食におきましては、効率化と差別化を両立させるため、各施設の独自性を出した高単価・差別化メニューを拡充し、収益の拡大とともにアルペンルートの魅力・付加価値向上を図ってまいりたいと存じます。

お越しいただいたお客様には、基本的な接遇の徹底と、各館の特徴を踏まえたサービスの提供を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

2 宿泊・食品の安全確保と自然保護

お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう、施設や食品の安全には、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、そして食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底等、引き続き、立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成29年3月31日現在)

(単位: 百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	660	流動負債	167
現金及び預金	565	支払手形	3
売掛金	4	買掛金	11
未収金	10	短期借入金	60
商品	2	未払金	15
貯蔵品	56	未払費用	7
前払金	5	未払法人税等	6
前払費用	0	未払消費税等	11
繰延税金資産	14	預り金	11
その他	0	賞与引当金	37
固定資産	1,365	前受収益	2
有形固定資産	1,137	固定負債	715
建物	529	長期借入金	180
建物附属設備	211	退職給付引当金	533
構築物	96	長期未払金	2
機械及び装置	13		
車両及び運搬具	13	負債合計	883
器具及び備品	49	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	1,208
建設仮勘定	104	資本金	900
無形固定資産	4	利益剰余金	308
ソフトウェア	3	その他利益剰余金	308
電話加入権	1	繰越利益剰余金	308
投資その他の資産	223	評価・換算差額等	△65
投資有価証券	111	その他有価証券評価差額金	△65
関係会社株式	35	純資産合計	1,142
繰延税金資産	45		
その他	31	負債・純資産合計	2,026
資産合計	2,026		

損益計算書の要旨

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

科目	金額
売上高	2,749
売上原価	754
売上総利益	1,995
販売費及び一般管理費	1,977
営業利益	17
営業外収益	11
営業外費用	1
経常利益	26
特別損失	2
税引前当期純利益	24
法人税、住民税及び事業税	14
法人税等調整額	△7
当期純利益	18

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	評価・換算差額等 その他 有価証券 評価差額金	
		その他 利益剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	900	290	290	1,190	△82	1,107
当期変動額						
当期純利益		18	18	18		18
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					17	17
当期変動額合計	-	18	18	18	17	35
当期末残高	900	308	308	1,208	△65	1,142

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員

(平成29年6月29日現在)

●設立年月日
昭和42年12月24日

●資本金
9億円

●発行済株式総数
900,000株

●株主数
2名
立山黒部貫光株式会社
富山地方鉄道株式会社

●役員

代表取締役社長

専務取締役

常務取締役

常務取締役

常務取締役

取締役

取締役

取締役

取締役

監査役

監査役

総務部長

経営企画室長

ホテル営業部長

技術環境部長

経理部長

佐伯 博

永崎泰雄

新森雅夫

中川 修

石野一美

辻川 徹

見角 要

高江 均

中村直幸

川嶋芳明

中田邦彦

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 （存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託

ホテル3館のご案内

立山黒部アルペンルート



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<http://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原

☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242

<http://midagahara.alpen-route.co.jp/>

宇奈月温泉



黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26

☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

<http://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185